

牛久：学校周辺に見る自然

第22号 牛久自然観察の森

2016年9月14日発行

＜ 夏の終わりに、牛久自然観察の森を歩く ～ ⑥ バッタの仲間 ＞

9/2、夏の終わりに歩いた牛久自然観察の森。今回は、バッタの仲間です。



梅林を歩くと、次々と飛び出していくバッタがいました。一見トノサマバッタに似てますが、飛んでいるときの羽を見ると黒っぽく丸いもようが見えます。それでクルマバッタ(車バッタ)と名がつきました。さらに似たのでクルマバッタモドキというのがありますが、胸部の背中側がクルマバッタではもり上がっているのに対しクルマバッタモドキではほぼ平なことから見分けられます。

梅林を歩くと、次々と飛び出していくクルマバッタ。



続いて、コバネイナゴ。田んぼやその周辺の草はらでよく見かけイネの害虫として知られますが、イネ科以外の草の葉もよく食べるそうです。この日はなぜか、ネムノキの枝にいました。羽が短く写真のように腹部の先端を越えないことが多いのでこの名(小羽いなご)がつきましたが、もっと羽が長くハネナガイナゴ(羽長いなご)と間違えやすいのもけっこう見かけます。佃煮にして食べるのはこれ。

イネの害虫、コバネイナゴ。なぜかネムノキの枝に。



観察舎のまわりでは、おんぶをしたままとび出してきたバッタがいました。おなじみのオンブバッタです。おんぶされている小さいのがオスで、他のバッタと違い交尾前から交尾後もしばらくの間おんぶしたままです。これはオスがメスを一人じめるためのようです。何だか動きが変だと思っ

て見ていましたが、敵におそわれたのか、オスの手前側の羽がもげていました。

おなじみのオンブバッタ。おんぶされているのがオス。



最後にショウリョウバッタ。飛んだところをクモの巣にかかってしまいました。放棄された巣だったのか、それとも近くにいた私を警戒していたのか、クモはいつまでも姿を見せず、バッタはもがきながら時間をかけて逃れていきました。クモの糸に巻かれてしまったバッタもよく見ます。生き残ることは大変なのですね。

【理科支援員：宮内】

クモの巣にかかり、もがきながら逃れるショウリョウバッタ。